



徳島大学病院 形成外科・美容外科

山下雄太郎特任助教



血管奇形に対する硬化療法

血管が異常に増殖している状態を血管奇形や血管腫と呼びます。血管腫は自然に消退しますが、血管奇形は成長に伴い増大してくる点が大きく異なります。皮膚や皮下の浅い部位の血管腫や血管奇形は、赤いあざや赤黒い腫瘍のように見えることもあります。

血管奇形に対する治療は、浅い病変にはレーザー治療で、深い病変では手術による切除が主体となってくる

静脈奇形では約半数に痛みを伴います。静脈に異常がある場合も、動脈奇形は硬化療法だけでは効果が出にくいので、カテーテル

ですが、病変部分が深いと外見上は異常がないため、周囲に理解されにくいことも問題となります。血管奇形の中でも、静脈奇形は病変部分に流れる血流が多く、重大な出血の原因となります。また重症例では心不全を引き起こすこともあります。

当科では2018年より、血管奇形に対して硬化療法による治療を始めております。この治療は異常血管内に血管を潰す薬剤を注入することで病変を小さくして、痛みなども和らげることができます。深い位置にある病変やいろんな組織を巻き込んでいる病変にも行うことができ、手術に比べて損傷の少ない治療です。また、動脈奇形は硬化療法だけでは効果が出にくいので、カテーテル

診してみてください。